

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。開会を2時から。

午後1時49分休憩

-----

午後2時01分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） こんにちは。今議会の最後の一般質問になります。

2番議員、会派清風会の脇本啓喜です。

今回は、まず1番目に、私には嫁も子供もないために取り上げられることをちょっとためらっていたんですが、少子化対策を中心とした島内人口減少速度の鈍化策について、2番目に、先ほどの質問の中でもありましたが、スピード重視社会における市の意思決定のあり方について、質問します。

なお、子育て支援策については、フェイスブック友達になっていただいた子育て世代のお母様方とチャット方式で、また別のグループのお母様方には直接お会いして、貴重な時間と情報を提供いただきました。この場を借りて、改めて厚く御礼申し上げます。

また、県及び県内離島自治体の子育て支援担当部署の方々にも御協力いただきました。誠にありがとうございました。

1番、島内人口減少速度鈍化策について。

（1）島内人口減少の現状認識と現在検討中の具体的対応策について。

①合計特殊出生率は高水準で、かつ近年向上しているにもかかわらず、島内人口どころか、子供が減少している現状の原因分析について、答弁を求めます。

②、①の原因分析を受けた具体的対応策について、答弁を求めます。

ちょっと小さくて見にくいんですが、これが長崎県、対馬市の少子化対策施策の一覧表です。これでは、なかなか伝わらないだろうということで、あえて、出させていただきました。他自治体では、パンフレット等を使って、周知を徹底しているようですので、その辺も含めて、御答弁をお願いします。

③、対馬市は人口自然増促進策の政策を待ってられない状況下にあると思われませんが、人口の社会増促進に向けた具体的対応策について、答弁を求めます。

（2）高齢者が島に住み続けやすくする支援策について、特に中心市街地以外が抱える問題解決に向けた具体的施策については、午前中の阿比留議員の質問に対する答弁で、「食の砂漠化」や前回私が質問した福祉有償運送ハートフルサポートさんの分ですね、を検討するという言葉が出てきました。ある程度、答弁が尽くされたと思いますので、特に答弁を加えたいという点がな

ければ結構です。ただし、先ほどは地方交付税に例えられましたが、合併算定替えの期間、この予算も同様以上の意味合いがあると思いますので、考慮に入れた予算策定を要望します。

2番、スピード重視社会における市の意思決定のあり方について。

(1) 新規事業や大型事業を展開する上での議会への情報提供について。

議案は議会で審議されるものですが、事前に情報を議会に提供し、よりよい議案へと練り直して提出する方法も考えられます。昨今、スピードが最大の付加価値であると言い切る首長が時代をリードしている現状を鑑みると、議案が速やかに議会で可決されるための工夫と有無を言わせぬ成功実績が現在の首長には求められていると思います。そうはいつても、議会で慎重審議が求められることは言うまでもありません。そのためには、市長が以前議会で答弁されたように、従来のように、でき上がるまで公表しないというのではなく、途中段階で公表し、議会や市民の御意見を頂戴し、よりよいものとしていくという実行が必要だと思います。新規事業や大型事業を提案しようとする際、議会に公表できるところから公表してもらうことで、遅くとも議案として議会に上程するころまでには、議員は何らかの形で地域住民の意見掌握に努め、議会に臨むことができます。また、このことは、今議会で上程されている「発委第7号議会の議決すべき事件を定める条例」でうたわれようとしている「市政全般に係る政策及び施策の基本的な方向を総合的かつ体系的に定める計画を策定し、または改廃すること」、これを担保するという意味においても、「仕掛かりでリリースして、よりよいものに仕上げていく」という仕組みの構築が必要不可欠だと思います。

以上を踏まえて、市役所と市議会間の新たな早い段階からの情報共有方法構築の必要性について、市長の見解を求めます。

(2) 審議会等市長の諮問機関と市議会の関係について、市民協働推進を図るため、審議会自体のあり方も検討され、公募委員も増加するなど、私は一定の評価をしています。しかし、そこでの審議内容の周知がまだ不足していると思われる。前述の(1)は企画草創期の問題であり、この(2)の問題は、調査費が議会を通り、執行予算を提案するまでの問題点整理と言えるでしょう。当初、調査費獲得時に議会へなされた事業目的等の説明と整合性がとれているかを議会に中間チェックさせれば、執行予算上程時のスムーズな可決に寄与すると思います。市長の諮問機関からの議会への進捗状況の報告と今後のさらなる改善策について、答弁を求めます。

あとは、答弁によっては再質問をさせていただきます。

○議長（作元 義文君） 脇本君、この発委第7号は、上程される予定です。

○議員（2番 脇本 啓喜君） 予定。

○議長（作元 義文君） はい。「上程されております」じゃなくて、「される予定」です。

○議員（2番 脇本 啓喜君） はい、すみません。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 協本議員の御質問にお答えさせていただきます。

1点目の島内人口減少のこの速度を鈍化させる具体的な方策があれば、そのことについて、市の見解をというふうな御趣旨でございます。もう分析はよかろうかと思いますが、よろしいですかね。

実際、昨年の3月に対馬市総合計画後期基本計画というものを策定をさせていただき、それののっつて、市政運営を順次やっているところでございます。人口減少、これをとめるための施策というのが全国どこも、そこだけに向かってやっていると言っても言い過ぎではないと思います。何と云っても、人口、人がいないことには、地域というものは成り立ちません。そういう意味において、後期計画の中の第一に掲げている部分が産業の創造という部分、そして雇用をつくり出すんだというふうなことを第一に掲げるところであります。外からの雇用企業というのは大変難しいと。だから、この地域の中の資源というものをもっともっと表に出しながら、産業創造に向かっていかななくては、対馬市は立ち行かなくなるんじゃないかという思いで、そこを中心とし、182の主要な事業を今、一つ一つ推進をしているところであります。このことが、ひいては人口の減少を鈍化させる、抑制する。もしくは、横ばいに持っていく。できれば、わずかでも微増になるようなものを求めて、今、動き出しをずっとしているところであります。一朝一夕に人口をとめるということは、できるとは到底思っておりません。苦しい道だと思っておりますし、行政だけの話ではなく、民間の事業体も一つになっていただかないと、これはできない話であります。自分らの島が、この自治体がどのようにして生きていくかというところの共通認識をしていくことがとても大切なことでもあります。

午前中に阿比留議員のほうから御質問がありました集落というもの、集落再生という話がたまにありましたけども、そこにも通ずる話であります。集落をきちんと再構築していくことが人口のとめることにもなりますし、全ての施策というものが人口、雇用というものにつながっていくような施策展開というものを必要というふうに思っております。今回の議会におきまして、上対馬の堂坂線のお話と厳原南部の尾浦から浅藻のお話をさせていただきました。これら道路事業、単純にハード事業というふうに捉える方もあろうかと思いますが、これを、答弁の中でも言わせていただきましたが、市がするだけではなく、県がし、そして国境離島の特別措置法の中で、国の直轄事業というふうな方向性を私どもは推し進めながら、早期にそういう交通インフラというもの、最低の部分です。これらを樹立しなければいけないというふうに思っておりますし、そちらに向かって、これから私どもは、いろんなところに働きかけというのをしていきたいと思っております。そのことは、産業というものをつくり出すための大切な血管であります。その方向が見えないと、皆さんも産業の次なる一手が見えないだろうという思いがあって、今回特別委員会の

方向性を受け、私、走らせていただいたところです。どれもこれも全てのことが人口の減少を食いとめるため、そして皆さんが笑顔で生活できる地域をつくるためという思いで、飛び回っている次第であります。自分の、こういう男ですから、私利私欲なんて、全くありません。時間も全ての時間をそういうことに割いておるつもりであります。常に人口が頭から離れませんし、この社会の基本である分母の人口というのをどのようにして、裾野を広げていくかということ、これが全てだと思ってます。この人口がふえることによって、多くのことが解決する。そして、皆さんが悩まなくていいことが一つ、二つ、三つと消えていくことだというふうな思いを持っておりますので、いつも、この3万5,000を切ってしまった、この数値というのを見るにつけ、私は今後の島のつくり込み方というのを皆さん、そして市民の方と真剣に語り合っていないといけないと思っておりますし、こちらの思いをきちんとお伝えしていかなくてはいけないということで、取り組まさせていただいているというふうなことで御理解をいただきたいと思っております。

当面、市民の後期計画で上げております、表に出しておりますが、底力というもの、対馬の底力というものを表に出すこと。そして、市民が自分の持つてある才能、力というものを100%一つの方向に発揮をしていただく市民力というもの、そして3万5,000を割り込んでしまった、この人口では、なかなかできない部分もございます。そういう意味において、外の力というものをお借りしながら、この対馬をこの時期つくり込んでいきたいというふうな思いでありますので、よろしく御理解のほどお願いいたします。

2点目については割愛をさせていただいてよろしいでしょうか。高齢者の問題につきましては、大きな2点目の市役所の情報というものを市議会のほうに情報としての共有のあり方というのを今後のということを御提案がありました。議会のみならず、市民の皆様に対しましても、途中経過においては、パブリックコメント等をしっかりととっていくということも、市民基本条例上も出しておりますし、そして計画段階から市民の皆様を審議会の中に公募委員を含め、話し合いを進めていくんだというような方向もそこで出しております。大きな柱として、28条でしたか、情報公開というもの、開示をどんどんしていくんだということで、物事は基本的に進めておるつもりでございます。（発言する者あり）そういう中、議会へもっと早いというか、途中段階における公表の仕方等があるんじゃないかというふうなお話がありました。これらについて、ある意味、今のこのような時代ですので、タブレット端末等をそれぞれの議員の皆様を持っていただくという手法もあろうかと思えます。で、一気に、同時に流し込んでいくということもいいんじゃないかというふうな思いもありますし、その時期等については、また、次の段階におきまして、御提案をさせていただければなどと思っております。一定の経費等は確かにかかるものの、そうすることが皆様との情報の共有につながるということの御提案のようでございますので、私どもも

十分に検討をしていきたいと思っておりますし、それが市民基本条例の本旨にのっとったお話かなというふうな感じしております。どうも。

○議長（作元 義文君） 2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） 1番、2番、ちょっと前後しますが、まず、2番のほう、大きい2番のほうから先に。

議会とそれから市役所との情報の共有ということについてですが、やはり、議案は確かに議会で審議されるものです。根回しとか、そういうことではなくて、やはり、こういうことを考えているということが先に市長部局のほうから議会に入ると、特に自分の地域の方々とかには、市長はこういうことを考えているようだがどう思うかなということ、地域の声も聞きやすくなると思うんですね。議会に出てきて、いきなり提案されたものについて、それから何日か後にはもう各常任委員会があるという段階では、なかなか議員も市民からの声が吸い上げられません。なるべく、先ほど言われましたけど、タブレット端末の議員配付。いいことだと思いますね。ぜひ、検討を進めていただきたいと思います。

大きな2番については、いい回答をいただきましたので、1番に絞って、これから行きたいと思えます。

先ほど、人口、出生率は上がってるんだけど、人口は減ってる。これはどうしてかという分析はいいですかということで、いいですとは言ったものの、市長のほうからも、島民みんなで考えていく問題だということですので、私のほうから、自分なりに、その原因を分析してみましたので、ちょっとお話をさせていただきたいと思えます。

昨年の7月この「ガバナンス」というのが出てるんですけど、これに「子宝なのに人は減る」という、結構4ページにもわたって、対馬市のことが取り上げられてました。それで、この記事によりますと、対馬市の合計特殊出生率は当時2.01であり、全国11位、2003年から2007年の時点ですね。と、高水準にあり、2010年国勢調査で人口が10%以上減少した自治体ではトップです。対馬市では他の自治体ほど、子育て支援を実施していないにもかかわらず、高水準な理由をライターは現地調査を踏まえて、次のように記しています。

「その理由を現地の人に聞いてみると」ということで、「周りも三、四人産んでるから」、「長男が産まれるまで産む傾向がまだ残っているから」、それから「仕事と出産なら、当然出産を選ぶという地域性があるから」、「子連れで離婚して帰ってくる女性が少なくないが、対馬の給与水準では経済的に厳しいので、その多くが再婚する。そして新たに子供をもうけるから」、それから「祖父母や地域の協力が得やすい環境であるから」など、町の声を紹介しています。

なるほどと思いつつも、ほかにも何か要因があるのではないかと私なりに考えてみました。そもそも子供をもうけやすい環境。つまり、島出身の娘さんが残る。帰ってこれる。あるいは、島

外からお嫁さんに来てもらえる家庭環境にしか、若い女性が残りにくいので、跡取りを産むだけでなく、さらに兄弟を産むことができる。統計上の分子になりやすい分母しか島に残っていない。すなわち、出産年齢層が激減しているので、出生率が上昇しても、子供の数が減るといことだと思えます。

2009年度の合計特殊出生率は2.39とさらに高くなっています。対馬の。実際に対馬市の出生数は1992年度387人に対して、2009年度には299人と激減しています。あえて、もう一つ要因を上げるなら、対馬には比較的生活が安定している転勤族夫婦が他の自治体より多くいらっしゃる、彼女たちは出生率が高い。そもそも出産年齢層が少ないため、出生率を上昇させる因子が加わることで、少なからず影響があっていると思えます。先ほど市長も言われましたが、これを読みまして、私も、出生率に一喜一憂するのではなくて、いかに島に人が住み続けられるようにしていくかを島民みんなで考えて実践していかなければいけないなという感想を持ちました。

分析については、これで、何かあれば、よろしいですかね。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、分析結果ですが、いろんな子育てをされている方たちのお母さん方の顔が浮かびました。いろんなケースですね。根本的に、どう分母をふやすかということが全てだろうと思っておりますので、やはり、分母がふえる環境という問題を真正面から取り組んでいくということを再確認、再認識させていただいたところであります。

○議長（作元 義文君） 2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） 私もそのように思います。もう一つ、言えるところが、その分母をふやすということと、今の分母でも、まだ産みたいけども、産めないという人がいらっしゃると思います。今、残ってる方々に対して、どのようなことをやっていけばいいかということについて、今回、子育て中のお母さんに、このような質問をして、それから得られた回答が、このパネルになります。何分、比田勝近隣のお母さんばかりの聞き取りになりましたので、地域的に偏っている点は御容赦ください。

対馬の子育て支援策について知っているかということについては、ケーブルTV等で宣伝している子育て支援ルームは知っているけども、それ以外はほとんど知られていないようです。例えば、「チャイルドシート購入制度があることを知らず利用できなかった」。後から知ったんで、領収書がなかった。というように、制度があっても利用してもらわないと意味がないと思います。県内の他の自治体ではパンフレットをつくり、母子手帳交付時や転入届への際、対象の子供がいる世帯というふうなことがわかると配付したり、学校を通じた配付以外にも工夫をして、対象者への周知に努めているようです。市長のほうにもお渡ししてますけど、この新上五島町のパンフ

レット、わかりやすくできています。協力くださったお母さん方に、これを中身も見てもらいました。そしたら、対馬もやってくれたらいいなというふうにおっしゃってましたので、ぜひ、よく見て検討していただければと思います。

それから、子育て支援についての要望を伺うと、専業主婦の方は近くに安心して子供を遊ばせる所がないなど、いかに子供を楽しく遊ばせてあげれるかということ、仕事を持っているお母さん方は仕事をしているときに安心して預けられるということが欲しい。これが大きな悩みなんだと、本当に当たり前のことですが感じました。「旧上対馬町役場跡地をせめて整地にして、遊び場に開放してほしい」という意見も出ております。こども園の計画もしていますが、長いこと決定にはならないと、遊ばせとくのはもったいないんじゃないかなという意見がありました。

それから関連してですが、このこども園建設をする際は、市営江尻団地ですよね。あそこの橋の所を渡らないと工事車両は通れないと思います。こども園をつくるというのが決まった後、その橋を建設しては、また1年おくれることとなります。いずれ、あそこにつくろうという計画があるのであれば、そして今、不便です。海上保安庁さん、それから海上自衛隊さんの官舎もあります。郵便局もあります。結構交通量もあるんですが、20年ぐらい鉄板が敷かれたまんまになってますので、その建設後にかきかえということではなくて、早急に橋のかきかえ等も要望しておきます。

それから、雨の日はますます子供を連れていく所がない。これについては、今回シルバーグランプリをとった対馬とんちゃん部隊の活躍を受けて、市から何か支援をしたいというふうな申し出があつてるようです。ありがとうございます。彼らはこのように言っています。「自分たちの活動資金というような直接支援は要りませんので、今、構想中の国際ターミナル新築の際、比田勝の町中まで観光客が入り込んでにぎわうような整備をするといったような支援をお願いします」と。またまた感動させることを言ってくれています。

家族連れの韓国人観光客もふえていますし、彼ら、比較的多くの金を使ってくれます。そこで、地元の子供と触れ合う屋根付きのスペースを設けることも、これからワークショップ等もあるようですし、検討を図っていければなというふうに思っております。

それから、予想どおり、医療に関する要望はたくさんありました。産婦人科がなくなったのはショックが大きい。今の緩和策でも、やっぱり、厳原まで行かないと出産できないのは不安だ。ほかの診療も充実してほしい。医療費や薬代の補助、これはありがたいが、維持・拡大をしてほしいと。これはあくまでも、私が聞いといて言うのも何ですが、要望ですので、これを全部しろということは、私は言ってません。優先順位をつけながら、予算のつけられる限りやっていただければというふうには思っています。

それから、先ほどから、きのうからずっと市長も言ってらっしゃいます市民協働ですね、のこ

とについても、お母さん方は考えてくださっているようです。安いランチが食べられる所がなく、自分たちでやろうとしたけども、スペースを確保できずに諦めたことがあるという情報もありました。

「例えば、空き店舗を利用して、お母さんたちと商工会や商店の方が協力して、地域の問題を解決を図るコミュニティビジネスの子育て支援サークル事業を運営するとしたら、運営費も利用者負担も抑えられるし、対馬市にはそんな取り組みを支援する補助金制度が幾つかあるのでやれないかな」というふうに私が言ってみますと、「いいかもね」という反応でした。わがまち元気創出支援資金制度の相談員や地域マネージャーとも立ち上げに向けて協力いただければ、実現の可能性も高まると思いますので、申し出がありましたら、積極的な支援を要望しておきます。

その際、こんなことも言ってらっしゃいました。高齢者のいきがいくりの面からも、「もう1人のおじいちゃん、もう1人のおばあちゃん」として、高齢者も事業に参加できるような事業となれば、さらにいいなという意見もありました。

今、新規ビジネス支援事業で、最もうまくいっている事業の一つは、佐須奈の主に高齢者支援を地域の方で担っている「よっていかんねえ」だと私は思っています。次は子育て世代を支援する事業での成功に向けて、私も微力ながら協力したいと思いますので、よろしくお願いします。

これまでのお母さん方の御意見・御要望について、何かございましたら。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 子育て支援を実際今そこに直面してあるお母さん方とのアンケートとか、ヒヤリングのお話を聞きました。正直言いますと、私も3カ月ほど前でしたか、上対馬のほうの子育て支援の方たち、七、八人と2時間ほど、あそこの社会福祉協議会の会議室でというか、フロアで座り込んで話をしたことを今思い出しました。

やはり、地域に根ざした脇本議員のほうが細かな話を聞いてあるなというふうに思っていて、私は専ら表層的な部分で、2時間でしたけども、終わったのかなというふうに、今、反省をしているところであります。そういう意味におきまして、もっと、子育て支援制度の啓蒙ということが窓口でもされてないということ。早速、新年度からでも取り組めることだと思いますし、そして、そのことが子育て世代にとって、安心感を与えるようなことであれば、これはすぐに取り組みたいと思っております。しかし、逆に、そのような声を拾うことができなかった私ども職員。実は彼女らと、その方たちと重複してるかどうか、ちょっとわかりませんが、同じ世代ですから、そういう方たちとワークショップを職員は開いて、ずっとおります。そういう中で、そのようなお話が上がってきてないのではないかと思いますね。現時点においてはですね。そのような生の声を拾い出しができないという行政というのは、ある意味、意味がないなと、今、すごい無力感を私は感じております。もっと、私どもが彼女らの話というものの考え方というものに耳を傾けて



いく姿勢を持たないといけないなというふうに今感じておるところでございます。

もう1点目、大きなお話でございましたけども、江尻橋のお話でございました。鉄板を敷いてるんだよという話。私も、そういう認識はございませんでしたけども、それについては、今後の橋を渡ってから向こう側のさまざまな計画というものを照らし合わせながら、現状でよいのかどうかということをしかりと調査をしたいというふうに思います。

○議長（作元 義文君） 2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） お母さん方からの情報の収集の仕方についてなんですが、私もまだインターネットのフェイスブックを始めたのが7月ですので、十分に使いこなせてるとは言えないんですが、おもしろい機能も御存じのようにあります。皆さんに広く知らせる部分と、それから1対1でやるやり方。それから、四、五人だけが見て、リアルタイムに会話ができる方法。私は、その一番最後の3番目の形を今回1回やらせていただきました。大体、イメージは湧きましかね、市長。今の。これだとお母さん方もやはり忙しいですので、同じ時間帯に話を聞こうとしても、四、五人集まってもらうのは、こちらも気の毒ですし、それだと、ぱあっと打った後、しばらく何か仕事をしといて、ほかの人がこういう提案をした、こういう回答をしたというのを見た後、また時間を置いてでもできます。単に会話しているよりも、文章として残っているの、そして、ほかの人にもあまり知られることは、まずないので、そういうやり方もあるかと思えます。これは子育て世代のお母さん方だけではなくて、今から、そういう形で、職員の近い人たちに声をかけて、ちょっと、こういう施策を今考えてるんだけど、どう思うかなという形で取り上げていくのには、いい方法じゃないかなというのを今回感じさせられました。

先ほどタブレット端末を議員に配るということも検討してみようという話が出ましたけど、議員もこういう形であれば、私は今回インターネットを使ったとはいえ、比田勝近隣の方の御意見しか承れなくて、どうしても、比田勝地区のことに偏った質問になってしまって、恐縮だなとは思ってるんですが、市内全体の意見も聞いていけるんじゃないかな。それどころか、違う方法であれば、同じような悩みを持った自治体からも、そういう、僕のところはこういうことでうまく行ってるよというような意見も聞かせていただけるかもしれません。やはり、少ない情報よりも、多くの情報を整理しながら政策に生かしていく方向をこれからも考えていただきたいというふうに思います。

それでは3番目、小さい3番目ですね。ただ、人口、子供を産むことによってふやすという形ではなくて、社会的増加ですよ。これについて、具体的な取り組みを2点、ちょっと提案しておきます。

一つは、この前も話したんですが、対馬に残りたいという子供に目標を示すことが大事だと思うんです。対馬の子供たちの中には、大人になったら何とかになりたいという職業ではなくて、

大人になっても対馬に残り仕事がしたいと心の中では思っている子供たちがたくさんいると思います。以前も提案しましたが、こんな勉強をしたら、対馬で働くことにつながりやすいよというような目標を示してあげることが大事だと思います。子供が減り、教員採用は厳しさを増すばかりです。教員志望の人たちにとっては難しいと思います。病院関係者から、いろんな資料をいただきました。看護師不足と言いながら、給与や産休育休制度とやはり本土の病院と比較すると劣っているようです。本土並みか、それ以上の待遇を今の企業団病院がするだけではなくて、市単独で支援するという形で、それがまた医療の充実にもつながっていくと思うんですが、なかなか難しいと思いますが、検討することはできないのでしょうか。

対馬高校韓国語コースの生徒がいずれは韓国の大学に行って、対馬で働ける環境等を整備するなど、いわゆる企業誘致ができなくても、優秀で郷土愛あふれる子供たちが大人になって、対馬で生活できる夢を描けるようなことに努めてほしいと思います。

また、この一番最後にあるように、御協力いただいたお母さん方がおっしゃってました。女性の働く職場づくり。これが、男性の職場づくりも大切ですが、もっと大事なんじゃないか。女性を島に残し、女性の帰島を促し、ひいては男性が島に残ろうという意欲につながると思います。

最後、もう一つ、社会的増加についてですが、現代の屯田兵制度事業、これを防衛省に働きかけること。グリーンアイランド構想というのをつくられてる方がいらっしゃいます。この事業は、松原元政策官に提案されていたんですが、財部市長のところにも届いてるかと思います。財部市長も数カ月前に、ケーブルテレビで同様の考えを説明されているのをお聞きしました。定年が比較的早い自衛官を退官後に予備自衛官として、対馬に受け入れ、訓練と対馬の課題解決につながる仕事をしていただき、経費の大方は国の予算またはその働いたお金で生活していただくという構想です。当時の久間防衛庁長官時代に、このメンバーの方が直談判された際には、大変興味を示されてくださったようです。国境離島新法に盛り込む検討事項として、調査研究し、実現に向けて取り組んでいただくことを要望します。

以上、何かございますでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 残りたい子に、やはり目標を与えることが必要なんではないかというお話がございました。目標というのが、あまりにも、私、今までの私どもの反省として、なりたい職業とか、したい仕事とかいうものの選択肢が狭いんじゃないかなというふうに思ってます。この対馬でやれることがもっともっと本当はあるんじゃないかなというふうに思っておりますが、ところが、だからといって、私が、こういうことがあるよって提案はできないんですけど。対馬から今出て行って、向こうで、私どもが想像しないお仕事を、初めて聞くようなお仕事をされるケースがあります。これらの人を実は今回教育委員会のほうでもお呼びをするというふうな予

定を立てております。子供たちが初めて聞くような仕事内容。それによって、子供たちの将来の方向とか、可能性とかいうものを見開いてもらいたいなと思ってます。私も、この仕事がいいよとか言うのは、とてもまだ言えるような状況じゃないですが、そういうふうな仕事をされてる先輩方々がいらっしゃいます。そのようなものを子供たちに、これから先、提供をしていくことが対馬の可能性を広げることでもあろうというふうな思いで、今回取り組まさせていただきますと思ってます。

また、屯田兵のお話がありました。私は屯田兵という話、表現ではなく、この議会で、退役された自衛隊の方たちをこの島に置いて、労働力が足りない部分をまず補完してもらうことを考えたいという思いで、当時の折木統合幕僚長のところに行って、お話をさせていただいた経緯もごさいます。そのとき、折木統合幕僚長も興味を持っていただきました。今、折木さんも防衛省の顧問に就任をされておられますので、1回退官されておられましたけども、顧問に戻って来られましたので、再度、以前の話蒸し返しますがということで、お話をするのもいいなというふうに思っておりますし、国境離島の特別措置法の中にそういうのを盛り込めないかということでの相談をすることは一向に問題ないと思っております。

○議長（作元 義文君） 2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） まず、子供たちにこういう仕事をしたら、対馬に残れるという目標を示すことは難しい。それはそうだと思います。私たちも、私も大学卒業するときは金融が花形でした。で、途中、リーマンショック等があったり、その前の前の段階の方々であれば、例えば、造船が花形であったのが下火になってきたりということで、何がこの先いい職業になってくかということは難しい、読むことは難しいとは思いますが。ただ、私が言いたいのは、今、この対馬でかじを取ってらっしゃる市長ですから、こういう島にしていきたいんだ。こういう島にするためには、こういう人材が必要なんだと。そのためには、こういう勉強をしてきたら残れる可能性が高いというようなこと、職業は示すという形ではなくとも、施策、こういう島にしていきたい。こういう人材が必要になってくるということをお示しすることは可能かと思えます。そういう方々が育ってくるまでに、やはり、生き残るためには、生き延びとかなければいけません。そのために、午前中阿比留議員がおっしゃられたように、人材のアウトソーシングという言い方をされてましたけども、外の血を入れると。それで中の活性化も図っていくということ。出張先でいろいろな取り組み、離島とか、地方の取り組みを見てきましたけど、やはり、営業力のある人材を公募で募集しているところが伸びてるんじゃないかなと。私の私見ですが。今、いらっしゃる5人の協働隊員、それぞれ一所懸命活躍していただいて、私も高く評価しています。ただ、彼女たち、彼らに、やはり、営業というのは経験が必要です。経験を十分積んだ40代半ば、そのくらいの人をぜひですね、15万の給料で、18万やったかな、では、なかなか来ないと思

ます。それに上乗せできるのであれば、そういう形でヘッドハンティングという形も考えていかれたらどうでしょうか。やはり、今話題の武雄のフェイスブックの通信販売、そういうのも、そういう方を雇っていらっしゃいました。ぜひ、検討をお願いしたいと思います。

○議長（作元 義文君） 答弁、答弁は（発言する者あり）ないですか、時間ありませんが。

○議員（2番 脇本 啓喜君） 要望でいいです。

○議長（作元 義文君） はい。わかりました。

これで脇本君の質問は終わりました。

---

○議長（作元 義文君） 本日はこれで散会いたします。お疲れ様でした。

午後2時53分散会

---